

できることから始めましょう

鳥獣被害 防止対策マニュアル

～正しい知識を身につけ被害を防ぐ～



丸亀市
MARUGAME CITY

心がまえ

住民1人1人が主役

- 相手を知る
- 自分で守る
- 地域で共通認識を持つ
- 噂は噂にすぎない
- あきらめない

鳥獣被害防止の十力条

対策

イノシシを近づけない
環境をつくる

- エサをやらない
- 隠れ場所をなくす
- 防除柵を過信しない
- 鳥獣は臭い・音・光に慣れる
- 環境の変化を嫌がる

被害減少

はじめに

みなさんは鳥獣被害をご存知ですか？

なかにはすでに被害にあっている方、道路や川、山際にいるイノシシやサルを見かけたことがある方もいらっしゃると思います。

どうすれば鳥獣被害が、なくなるのか、出会ったときにはどうすればよいかなど、正しい知識を身につけて、被害を未然に防ぎましょう。

原因

田畑や家庭菜園の作物(収穫の残りや放置された野菜くずなども含む)の放置

庭や花壇に植えられた球根類

よく肥えた土や植木鉢の下などを好むミミズや昆虫

家庭から出る生ごみの放置

ネコやハトにまいたエサや室外でのペットのエサ等の放置

収穫されなかった栗や花卉などの果樹類の放置

ゴミ出し等の指定日、指定時間を守らず出すと、結果として餌付けをしたのと同様になります。



被害を防ぐためには. . .

① 「餌付け」をやめましょう

知らないうちに行っている「餌付け」について集落等で話し合いを行い、サルやイノシシが近づかない集落作りを目指しましょう。

そのために、エサを与えないことはもちろんですが、田畑に野菜クズを放置しないことや、ペットのエサを屋外で行うときには注意をしたり、ゴミ出しルールの徹底に努めることなど、呼び寄せない環境づくりをしましょう。

② 「隠れ場所」をなくしましょう

管理されていない放棄地やヤブなどはイノシシ等にとって絶好の隠れ場所であり、ナワバリです。刈り払いを行い、隠れ場所を減らすことで農地を保全管理し、景観を保ち、寄りつきにくい環境をつくる、一石三鳥の方法です。



被害を防ぐためには. . .

③ 出会ったときはあわてずに

通常、イノシシなどは臆病な動物なので、こちらから必要以上に脅したり危害を加えない限り、突然襲ってくることはありません。

基本的には、山から市街に下りてきても自然と山へ帰りますので見かけても、刺激を与えず興奮させないようにすることが大切です。

また、出会い頭での遭遇で危害を受けないように、音のなるものを身につけ、夜であれば、光るもの(懐中電灯等)を所持し、存在を知らせる工夫をしましょう。

④ 柵などで囲って侵入を防ぐ

光や臭い、音など様々な対策法がありますが、いずれも一時的で、忌避物質等の効果も限定的で、長期間の使用は逆に誘引物質になる場合もあります。農地や自宅など侵入してほしくない場所には、柵やネットなどの侵入防止対策をお願いします。

また、ワイヤーメッシュ柵については、網目が大きすぎると効果が薄れますので、網目を小さくすることや忍び返し等の対策を行ってください。

電気柵については、効果の高い方法ですが、維持管理を怠ると侵入されやすくなります。電線の高さの調整や定期的に刈り払い等を行い、雑草に覆い被さって漏電しないように注意してください。

捕獲等について

イノシシ等の野生鳥獣は法律により保護されており、捕獲するには時期や場所のほか資格『免許等』、捕獲方法など法律により制限されています。

(鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律より)

通常の捕獲は『狩猟』として行われるもので、11月15日から翌年2月15日までの3ヶ月間(イノシシについては農作物の被害が大きいことから11月15日から3月15日までの4ヶ月間)の間が猟期となっております。また、被害が著しい場合や増えすぎたイノシシ等の数を減らすため、『有害鳥獣捕獲』として市が猟友会に依頼し、出没状況や被害状況を見ながら捕獲を行っています。(＊ワナの近くには看板を設置しておりますので周辺では十分ご注意ください。)

そのほか、集落ぐるみでの鳥獣侵入防止柵設置について、2戸以上の構成を条件として市の助成事業もあります。

サルについては、生ごみ・廃棄農産物・放任果樹等の適切な処分や農地際・山際の山林や耕作放棄地等を見通しが良くなるよう整備したりすることが被害防止に繋がります。また、農地際に被害を受けにくい作物(トウガラシ、サンショウ、ミョウガなど辛味、苦味、刺激臭があり栄養価の低い作物、サトイモ、コンニャク芋など地中深く根茎を作ったり毒性のあるもの)を植えることで、被害防止に繋がりますので、植える畝の位置を変えるだけでも餌場としての魅力は下がり、効果が期待できます。

鳥獣被害対策の基本的な考え方

行政機関での被害対策の支援等はもちろんです。地域での取り組みが大切です。まずは、個人でも出来ることから率先して行い、それらを地域に還元して有害鳥獣を寄せ付けない集落の形成を目指しましょう。

個人でも出来る取り組み

- 田畑や家庭菜園での野菜クズや生ゴミ等の適切な処理や鳥獣が嫌う作物の植付けによる個人での農地の保全管理等。

集落・地域で出来る取り組み

- 追い払い等の自衛組織体制の整備
- 侵入防止柵や防護柵等の設置及び管理体制の整備
- 狩猟免許保有者の高齢化に伴う後継者等の人材育成の強化
- 圃場や周辺環境の見直しや地域ぐるみでの農作業体系の見直し
- 集落単位での情報共有や共通認識を持つための研修会や戦略会議等の開催
- 被害に遭いにくい農業形態の形成

守りやすい作目の配置や耕作放棄地の解消や不要物の撤去等の圃場整備
餌源放置の短縮・解消や餌生産を抑制する作業時期と作業順序の計画
野生鳥獣が隠れやすい放棄地やヤブ等を刈り払いし、農地と山林等の間に緩衝地帯(バッファゾーン)を設けることで警戒心が高まり侵入しにくくなる。

侵入防止柵について

侵入防止柵といっても様々な種類があります。主な侵入防止柵と特徴として

- シート柵 • • 圃場内の作物は外から見えず鳥獣の侵入は低下するが、強度が弱いため簡単に侵入されやすい。
- 有刺鉄線 • • 皮が厚く毛の固いイノシシにとっては効果は期待できない。
- トタン柵 • • 最も利用され地域によっては効果が認められますが、下から持ち上げたり、押し倒す、飛び越える等容易に侵入されやすい。傾斜地等では2段での設置が望ましい。
- ネット柵 • • 外側にたらしして設置を行うが、農作物が外から見えるため視覚的な遮断効果はない。また、容易に食い破る場合があるので、2重にしてネットの外側を斜めにすると、補強、踏切場所をなくせるようになる。ネットのほかに魚網を漁協から分けてもらえば安価に設置が可能である。



侵入防止柵について

- ワイヤーメッシュ柵••強度があり、効果も認められているが、視覚的遮断効果はない。市販されている企画の高さ(1 m)ではイノシシが飛び越えることもあるのでしのび返しをつくり、接近して飛び越えられないようにするのが効果的である。地面の掘り返しで侵入されないように柵の下を地面に埋ると効果が高まる。網目が大きすぎるとウリ坊が侵入できるので注意したい。また、ハクビシン等は体が小さく網目から侵入したり器用に柵を登り侵入してくるので電気柵等と組み合わせた設置が望ましい。



侵入防止柵について

- 電気柵・・・設置・維持管理がしっかりと出来ていればもっとも高い効果がある。電線は15～20cm間隔で設置し、ウリ坊がくぐり抜けられない、成獣の鼻先が当たるように考慮しておく。また、維持管理は重要であり、生い茂ってきた雑草や作物に触れると漏電してしまい、適切な効果を発揮できません。電圧の定期的なチェックや漏電していないかのチェックなど必要です。



などが挙げられます。これらを組み合わせて設置したり、個人だけでなく、集落単位等で計画的に設置を行うことで野生鳥獣を近寄らせない地域づくりが出来ます。

丸亀市における助成事業

事業種目	事業内容	補助率	採択基準
明日の農業を守る鳥獣被害防止対策事業	イノシシ等の有害鳥獣による農作物への被害が増加し、農業者の耕作意欲の低下を招き耕作放棄地の増加が懸念させるため、田畑への侵入防止柵を設置する者に対し補助を行い、農地の適正管理に努め、明日に繋がる地域農業の発展を目指す。	事業費に対し一律50%の補助とする。	農作物等被害軽減のため、ほ場への有害鳥獣の侵入を防止しようとする原則2戸以上の農業者等とする。

このほか、国や香川県における助成事業もあります。

詳しくは丸亀市農林水産課、綾歌市民総合センター、飯山市民総合センターまでお問い合わせください。

